

(10) 四 国



四国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

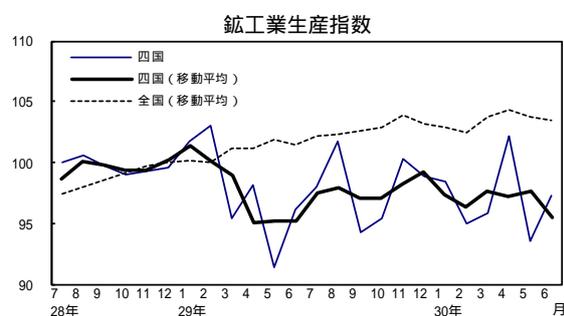
前回からの主要変更点

	前回(平成30年5月)	今回(平成30年8月)	
景況判断	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	
個人消費	底堅く推移	持ち直しの動き	
住宅建設	おおむね横ばい	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

4 - 6月期には、化学・石油石炭製品は、医薬品等の生産増から増加した。電気機械は、蓄電池の生産減から減少した。食料品は、減少した。はん用・生産用機械は、増加した。非鉄金属は、電気銅等の生産増から増加した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
化学石油石炭	22.9	3.8	14.1	38.2	22.9	10.8
電気機械	15.8	3.6	11.3	8.0	3.0	1.6
食料品	10.5	6.1	1.2	0.1	0.5	0.6
はん用・生産用機械	10.0	6.1	5.4	13.1	13.3	15.3
非鉄金属	8.0	4.1	4.2	1.9	1.0	3.7
鉱工業	100.0	1.8	1.3	6.6	8.4	4.0

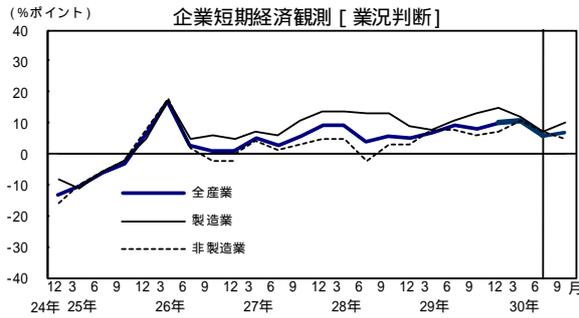
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4 - 6月期、6月は速報値

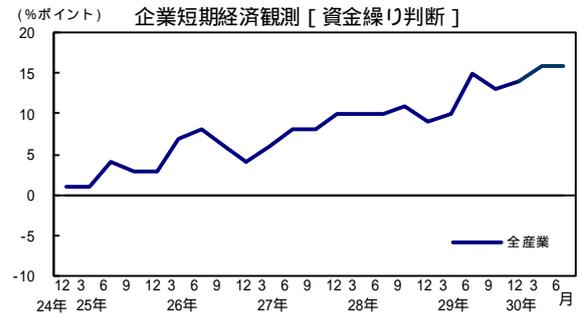
(10) 四国

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が縮小しており、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

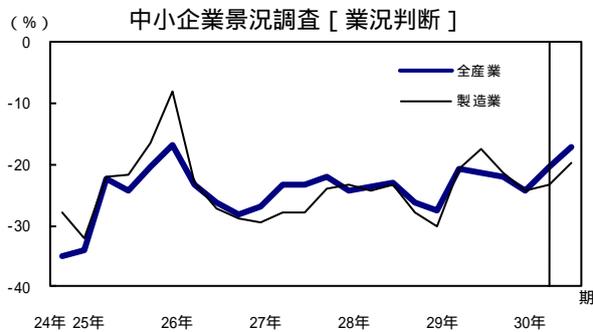
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年9月は予測。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。



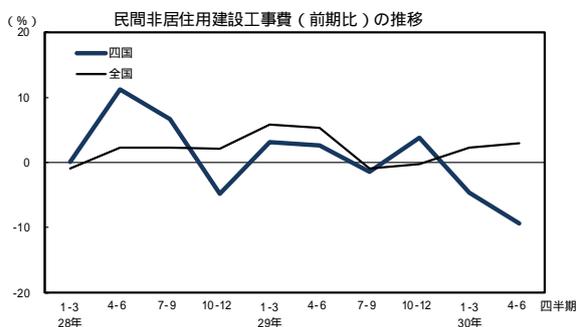
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]
「受注量が思うようには伸びない(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



(備考) 1. 季節調整値。

2. 30年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	29年度実績	30年度計画
全産業	1.9 (2.5)	28.5 (32.1)
製造業	16.5 (3.4)	63.8 (47.5)
非製造業	19.0 (1.6)	7.1 (11.4)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.6%増、5月は同2.0%減、6月は同0.4%増となった。

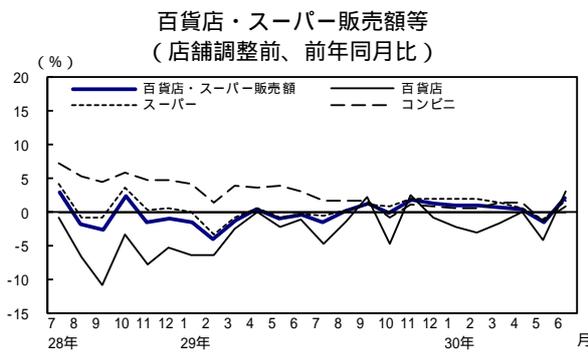
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、化粧品が堅調に推移し、時計などの高額品にも動きがみられたことから、前年を上回った。5月は、化粧品などが引き続き堅調に推移したものの、夏物衣料の動きが鈍く、婦人服や紳士服といった衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。6月は、クリアランスセールの前倒しなどから、婦人服を中心に衣料品が好調に推移したことから、前年を上回った。

スーパーは、4 - 6月期は、天候不順の影響により夏物衣料が振るわなかったものの、総菜などの飲食料品が堅調に推移したことなどから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「エアコン、扇風機という季節商材がけん引しており、他部門の減少分をカバーしている(家電量販店)」など「やや良くなっている」とする回答が増加した。

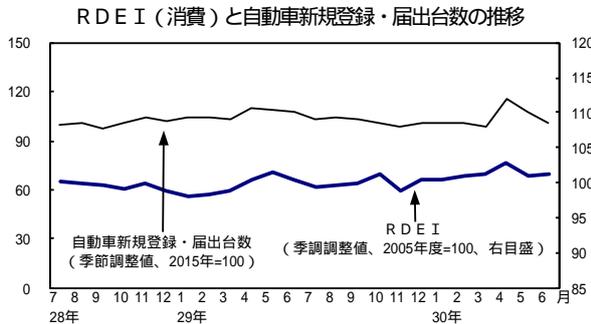


	30年4-6月	30年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.8	1.6	2.0	0.4
百貨店・スーパー(*2)	0.3	0.5	1.5	2.1
百貨店(*2)	0.2	0.2	4.0	3.2
スーパー(*2)	0.4	0.6	1.0	1.8
コンビニ(*2)	0.3	1.4	1.4	1.0
乗用車(*3)	0.9	6.7	0.4	7.3
(季節調整値)(*3)	7.9	17.6	6.8	7.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

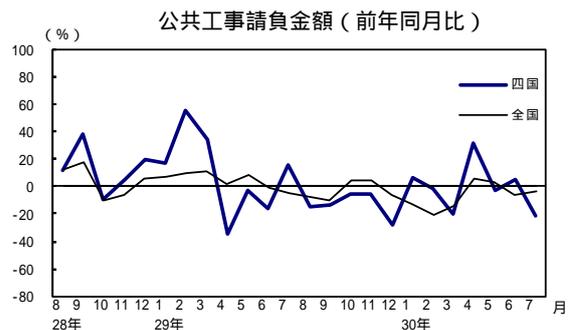
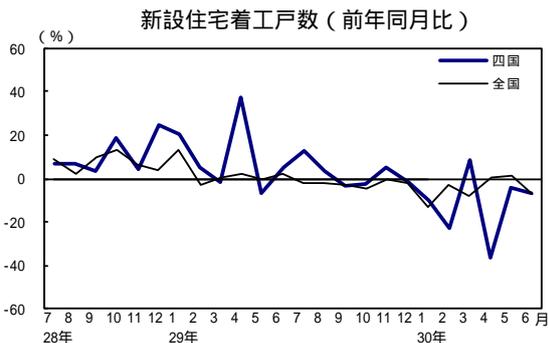
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は前年に比べて大幅に減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は30年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



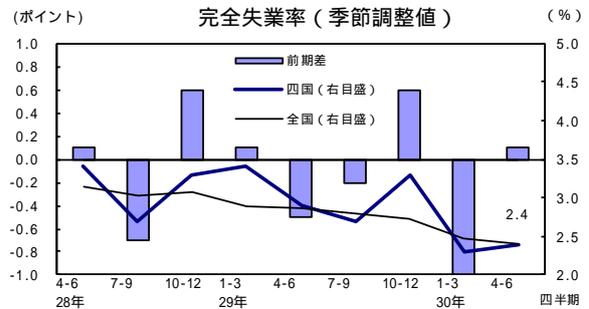
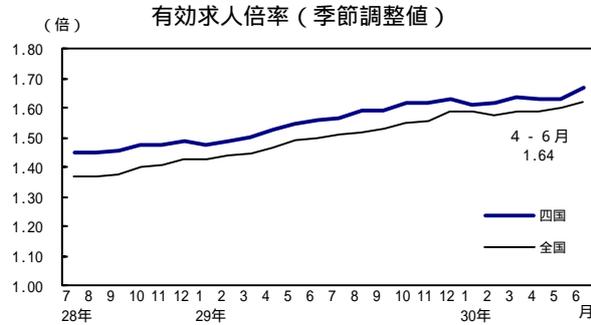
(10) 四国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[雇用関連 (現状)]

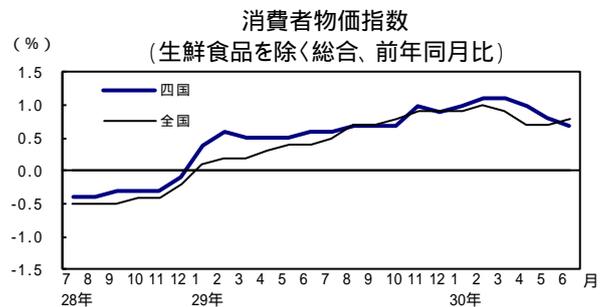
「過去最高の求人倍率が続いているものの、中途採用時の条件は変化していない (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばい、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年7-9月	10-12月	30年1-3月	4-6月	30年7月
倒産件数	30	37	42	41	15
(前年比)	21.1	37.0	40.0	2.4	66.7
負債総額	53	57	120	56	41
(前年比)	26.6	15.5	79.6	51.3	66.3



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

